



イスラマバードのタクシー運転手

アジア太平洋現地発

パキスタン AS YOU WISH?

宮沢 一朗

みやざわ いちろう

1992年、慶応大学理工学部卒業後、青年海外協力隊でケニアに教師として赴任する。米国コロンビア大学開発教育学修士修了後、コンサルタントとして主にインドネシア、フィリピン、ミャンマーの教育開発に携わる。1999年よりユニセフ・タンザニア事務所に勤務、ユネスコ・ダッカ事務所教育担当官を経て、現在、ユネスコ・イスラマバード事務所教育部主任。

「これでは裸の王様になってしまう。」いや、すでになってしまっている。パキスタンでは、上司の言うくだらない冗談に付合っただけで笑ったり、お世辞をいったり、日本と全く同じ。上司に反論することはまずない、みんな従順に言われたことをやる。私の部下は、AS YOU WISH (あなたの気の赴くままに) …。

どんな馬鹿げたアイデアを発しても「さすががボス」の眼差し。おめでたくこれに慣れてしまうと快感になる。そして知らぬうちに何が事務所でも現場で本当に起きているのかわからなくなる。

これは外国人の上司に対してだからでは

ない。パキスタンの社会において名家の出身だったり、年上であったり、組織の中で上位に立つということは絶対的な力をもつ。これは宗教的というか、土着文化というか、または心に強く潜む封建社会の名残なのか。

政府組織やNGOではこの傾向がさらに強い。組織は超ピラミッド・トップダウンになり、文字通り「ワンマンショー」になる。良心とヤル気に満ちたリーダーがいる組織はある程度機能する。実際、政府でもNGOでも強い組織は存在する。

でも、たった1人の考える人と100人のイエスマン (AS YOU WISH MAN) では限界が見えてくる。また、そのような組織でイエスマンとして生き抜くため、彼らが幹部になった時、統率したり決断できるリーダーに

なれる確率は高くはない。このあたりは日本人として同じく耳が痛い。

イスラマバードでオンボロのタクシーに乗って目的地に着く。「いくらですか?」と聞くと運転手は「AS YOU WISH」と答える。本当かなと思って、相場50ルピーなのに20ルピーをだす(あー意地悪は楽しい)。運転手の顔が「そんなあ」という表情になる。20ルピーを引っ込めて、100ルピーを差し出す。そして言う「おつりはAS YOU WISH」二人で笑いこけてしまった。

(写真は筆者提供)

ブログ「教育開発の仕事」

<http://miyaichi.seesaa.net/> 更新中

